○４月「発達障害啓発週間（４／２～４／８）」「世界自閉症啓発デー（４／２）」

十島村教育委員会だより　令和４年３月号

とわやかトカラ情報

南北１６０km
「心をつなぎ　気概に満ちた」十島の教育

十島村教育委員会
〒892-0822
鹿児島市泉町13番13号
TEL　099-227-9771

写真：「言の葉」大賞
宝島　舟木　蒼哉さん

１　年　間　を　振　り　返　っ　て
「１５歳の島立ち　会者定離の常」

十島村教育長　木戸　浩

コロナ禍で、様々な行事が縮小、延期あるいは中止されている中、１年を振り返ってみますと何とか実施できた行事や出来事もたくさんありました。

６月に15日から19日まで、小学校の七島集合学習を中之島で実施しました。様々な学びを体験できた学習だったようです。詳しくは本年度の７月号を再度見ていただければと思います。

6月29日に諏訪之瀬島小・中学校と７月６日に小宝島小中学校の学校訪問を鹿児島教育事務所と合同で行い、授業の様子を参観し、今年度から導入されたタブレットを活用した授業が効果的に推進されていました。

８月は、１年延期となっていた「東京オリンピック・パラリンピック」が開催されました。オリンピックでは様々な競技で世界中の選手が最高のパフォーマンスを発揮し、観る人に大きな感動と勇気を与えてくれました。パラリンピックは多様性を意識した大会でした。どちらの大会もコロナ禍という状況の中での開催でした。児童生徒の中にもオリンピックを目標に、これから努力でも続け、自分の可能性を高めていってくれることでしょう。

９月末から10月には、地区の研究協力校という小と・中学校、10月15日が悪石島小・中学校で、テレビ会議システムを活用しての初の実施でした。児童生徒の学力を全国並みに引き上げてくださっている先生方とそれに応えようと一生懸命に頑張っている児童生徒の皆さんの様子を、県内の先生方に知っていただく取組でした。これによって山海留学生が増えたり、興味関心をもっていただけたりする先生方が増えてくれることを期待したいと思います。

10月16日には臥蛇島「離島50周年式典」が、現地で実施されました。元島民の方々や役場関係者、議会関係者の方々が、臥蛇島に上陸し、厳粛に式典が行われました。臥蛇島の歴史が営々と刻まれていたことを再確認し、記念碑を建立することができました。

12月９日には悪石島で震度５強の地震が発生し、多くの島民の方々が島外へ避難されました。児童生徒も鹿児島市内や奄美大島、霧島市と身寄りを頼っての避難生活を余儀なくされました。幸い、被害はありませんでしたが、学校での授業を受けられない体験タブレット等を活用した遠隔授業や避難先での体験入学の対応を取ることができました。万が一の時の対処方法を探るための大きな手がかりとなりました。

12月18日には7年4か月の長きに渡って十島村教育委員会の教育長を務めていただいた有村孝一教育長が退任され、20日から新たに私（木戸）が、教育長を拝命したところです。

1月16日には、トンガの火山爆発による津波警報が真夜中に出され、各島の避難状況を確認したところでした。災害はいつどこで発生するかわかりません。リスクマネジメントとクライシスマネジメントをしっかりと想定し、児童生徒、そして島民の方々の安心・安全を守る備えをしていかなければと、改めて自覚したところでした。

さて、各学校では卒業式も終わり、中学校３年生は『島立ち』の時が近付いてきました。山海留学生の中にも島を離れる児童生徒のみなさんもいます。先生方も異動で、お別れをする方もいらっしゃいます。出会いがあれば必ず別れがあります。人それぞれに想いはあります。別れの淋しさは十島村での思い出の多さです。地元を離れてみて、改めて故郷のよさを感じるはずです。山海留学生や先生方にとっても第二の故郷として蘇ってくるはずです。別れの次にはでは新しい様々な出会いが待っています。コロナ禍で経験したことのない思いを胸に、前を向いて進んでいかなければと出発の日を待っています。旅立つ卒業生方が、感染症対策をとって、教職員を見送っていただけるとありがたいです。皆さんに幸多からんことを祈っています。

【新聞に投稿】

令和３年12月24日　南日本新聞「若い目」掲載

「みんなと　いっしょ」
悪石島小学校二年　赤さきこう太ろう

ともだちといっしょに図工をしていると、小さいゆれがきてだんだんと大きくゆれました。すぐにつくえの下ににげて、ヘルメットをかぶってみんなで校ていにひなんしました。つぎの日は学校がやすみでしたが、その間も小さいじしんがきて、ちょっとびっくりしました。ともだちは、しまの外にひなんしました。学校にかよっていたみんながひなんしたので、学校はぼく一人になりました。一人の学校はさびしいです。休み時間にだれもあそんでくれないのでそれが一番さびしいです。だけど、先生たちやとうみんのみんなが、体いくのときにあそんでくれました。しまに来ていたかんごしさんやけいさつのかたがたもあそんでくれました。

じしんがおさまってきたので、いままでみたいにともだちみんなであそびたいです。

令和４年１月13日　南日本新聞「若い目」掲載

工作のおもしろさ」
平島小学校二年　西山　泰陽

ぼくは工作が大すきです。工作は自分の作りたい物を、こだわりをもって自由に作ることができるからです。国語の「馬のおもちゃの作り方」の学習で、牛にゅうパックの船の作り方をせつめいする文を書きました。そのときぼくは、十島村の生活をささえる「フェリーとしま２」をイメージした牛にゅうパック船を作ってみたいと思いました。実さいに作ってみました。学校にある池にうかばせてあそんでいると、ほかの学年のみんなや、たいらっこ園の子どもたちがあつまってきて「上手作ってみたい！」と言ってくれました。うれしい気持ちになりながら、みんなに作り方を教えました。一人一人か作ったこだわりがある牛にゅうばっく船であそびました。とても楽しかったです。

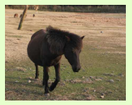
これからも、自分の「こだわりをもった物をたくさん作っていきたいです。みんなに工作のおもしろさが広まってほしいと思います。

令和３年12月５日

トカラ馬の生活

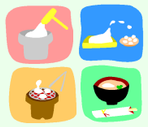
パカッ　パカッ　パカッ
ぼくはトカラ馬
草が生えてて
ぼくのすんでいる所には
木もある
湖だってあるんだぞ
パカッ　パカッ
あれれ？
人がたくさんいるぞ
やさしいみんなが
草をくれる
幸せだな
心地いいな
パカッ　パカッ
今日もいい天気

（口之島小学校五年　松田　真治）



令和４年２月17日

もち　もち　もち
もち　もち
さあ食べよう
一つ目ぱくり
おいしいもちは幸せもち
もう一つ食べようかなあ
二つ目食べよう
おいしいなあ
もちは幸せを運んでくるよ
食べるとえ顔があふれるな
たくさん食べたな
わははははは
幸せいっぱい
わははははは
また食べたいな
ふふふふふ



（小宝島小学校三年　東　和心）

南日本新聞「子供のうた」掲載作品

令和４年２月５日

人間って不思議だね

ダメと言われたら
やりたくなる
体に良くないものを
食べたくなる
なんでだろう

人間って不思議だ
困っている人を
助けたくなる
負けたらくやしくなる
その積み重ねで
人間ができているんだね

（宝島小学校五年　田中　光結）

十　島　村　で　学　ぶ

【平　島　で　学　ぶ】
平島中学校３年　後久　愛里

足　跡　を　振　り　返　っ　て

私は、平島中学校３年生です。中学２年生の春から山海留学生として、生活を始めました。学校では、穴釣りやたけのこ採り等行事がたくさんあり、楽しく活動しています。寮では、いか釣りやお茶碗作りなど、島でできる事や様々な体験をしています。

その中で、強く印象に残ったことが２つあります。

１つ目は、学校で作った島豆腐作りです。大豆から絞り出した豆乳ときれいな海水から作りました。海水から得た塩加減が絶妙で、おいしかったです。

２つ目は、寮生で海に行ったときに、素潜りをしたことです。海底が深く、光が差し込んで神秘的でした。新しい世界が広がっているようで、見ていて楽しかったです。このように、平島では多くのことを学びました。高校生活は、これらの知識を生かして充実する日々にしていきたいです。いまだに、将来の夢が見つかっていない私ですが、多くのことを吸収してこれからの道のりで、探していきたいと思います。

【悪石島小・中学校からのメッセージ】
教諭　中野　聖子

２年前、転勤先が十島村と聞いたとき、私は御縁を感じました。なぜなら、６０年前、祖父も宝島小中学校に赴任し、父は小学校を卒業しているからです。幼い頃から、十島の暮らしや文化について話を聞いていました。その当時は確かに不便もあったようですが、楽しかった思い出しかないと言います。島に一台のテレビで、島民みんなで東京オリンピックを見たことなど、とてもにぎやかで、温かな暮らしをでっあったそうです。悪石島に赴任し、本当にその通りだと思いました。想像していたよりもずっと大あきな島民の方々からの心強い支えがあって学校がこることに気づかされました。そして何よりも、教科指導や生徒指導など、この島でしか学びとれないものの大きさを実感しています。

児童生徒一人一人に向き合い、同時に自分自身を振りかえりながら過ごす毎日に、成長させていただいているように感じます。

改めて、ここ悪石島で児童生徒とともに過ごす充実した毎日に感謝し、日々、自分には何ができるのか考えながら精一杯取り組みたいです。そして、何か一つでも、悪石島の児童生徒、保護者、島民の方々に返していけるよう、教師としての努力を忘れず過ごしていきたいと思います。

『教職員仲間であるあなた』への　私からのメッセージ

今年度の村教研でも直接集まることができず、とても残念でした。船でお会いできた時にでも、それぞれの島のことについてお話できればと楽しみにしています。よろしくお願いします。